

ご挨拶

オリックスは、グループの総力を結集し、 ビジネスを通じて環境・エネルギー問題を 解決してまいります。



取締役 兼 代表執行役社長・
グループCEO

井上 亮

2016年11月にパリ協定が発効され、温暖化ガスの排出削減目標や進捗状況を国連に報告することが義務づけられました。世界各国の脱炭素社会への移行は今後も急速に進展し、日本も他の主要国に劣らない責任ある取り組みが求められています。

環境技術で世界をリードする戦略の策定や、エネルギー消費量が増えている業務や家庭の省エネルギー強化を目的とした法令改正など、政府主導の取り組みは既に始まっています。

オリックスの環境エネルギー分野への参入は1995年の風力発電事業への資本参加から始まりました。現在では、再生可能エネルギー、電力供給、省エネルギーサービス、廃棄物処理、金属資源など幅広い領域で事業を展開し、また日本で培ったノウハウを生かし海外での環境エネルギー事業の拡大も進めています。環境エネルギー事業は、地球的視野に立った社会問題と直結する分野であり、オリックスグループの幅広い事業が持つ高い専門性を活用して、オリジナルな視点の提案で問題解決を図っていきます。この考え方を確実に実践していくことを国際社会へ表明する意味を含めて、2014年7月には「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。

日本においては、再生可能エネルギーを導入して地球温暖化対策を講じつつ、電力の安定供給の観点から火力発電に一定の比重を置くエネルギー政策が進められています。

現在、私たちはこれらを背景に環境エネルギー事業を重点分野の一つと位置づけ、太陽光発電事業では2016年3月末までに国内トップ規模の約900MWのプロジェクトを確保しています。また、国内における電力市場自由化の流れのなか法人顧客向けに電力を供給する事業を進めており、環境に配慮したベースロード電源の開発・投資を進めています。この他に海外での投資も進めており、インドにおいて合計1,004MWの大型風力発電事業にも参入し、ベトナムの水力発電事業への参画も決定しています。

オリックスでは、事業活動を通じて社会に貢献するという考えのもと、常に新しい価値を創造して社会に提供し、社会から必要とされる存在であり続けることを目指しています。環境・エネルギー問題というグローバルに重要な課題に対して、積極的な事業活動・投資活動を通じて取り組むことが、オリックスならではの価値を社会に提供することに繋がると考えています。今後もオリックスグループとして力を合わせ、事業活動を通じた問題解決、そして社会への貢献に努めてまいります。

2016年11月



「更別・十勝メガソーラースピードウェイ発電所」

INDEX

- 環境と安全に対する考え方 P03
- 環境活動Highlight P05
- 環境エネルギービジネスの歩みと展開 P07
- オリックスグループのエコサービスと環境活動 P09
- 環境パフォーマンス P29